

第3回大阪地区渋滞対策協議会

【主要渋滞箇所の対策の進め方（案）】

平成28年7月27日

1.対策実施状況

■各地域別の対策実施状況

▶大阪地区では、主要渋滞箇所327箇所に対し、対策未検討箇所が106箇所となっている。

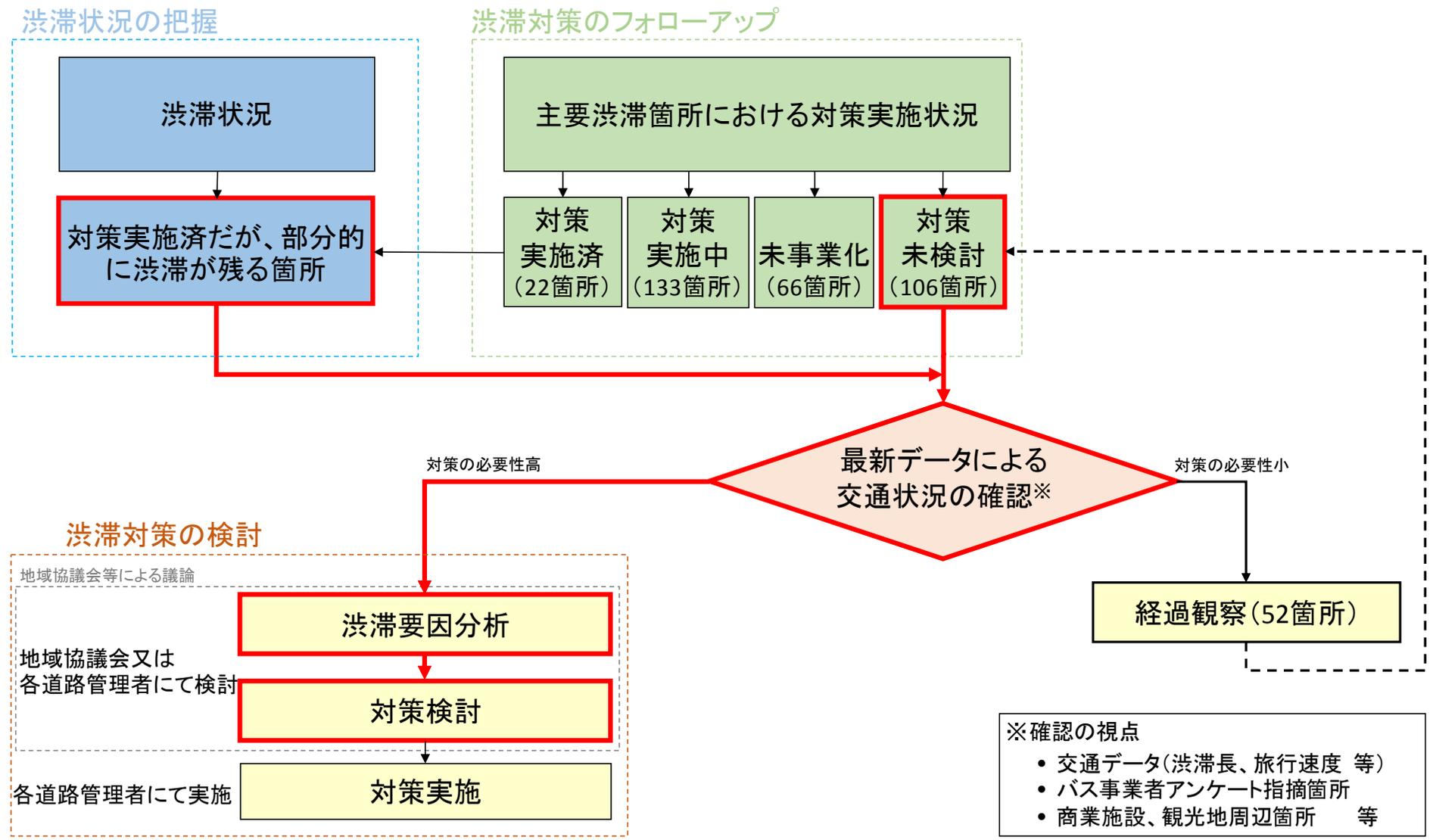
エリア・地域図	地域		主要渋滞箇所数(箇所)	対策実施済	対策実施中	未事業化	対策未検討
	大分類	中分類					
	大阪北部エリア	豊能地域	21	1 (1)	6 (6)	2 (2)	12 (12)
		三島地域	50	5 (4)	14 (13)	11 (3)	20 (30)
	大阪中部エリア	大阪都心地域(大阪市)	71	2 (2)	44 (43)	18 (13)	7 (13)
		北河内地域	47	4 (4)	9 (8)	16 (0)	18 (35)
		中河内地域	43	5 (4)	14 (9)	4 (0)	20 (30)
	大阪南部エリア	南河内地域	33	1 (1)	16 (12)	6 (0)	10 (20)
		泉北地域	39	4 (3)	19 (19)	7 (7)	9 (10)
		泉南地域	23	0 (0)	11 (11)	2 (0)	10 (12)
	合計		327	22 (19)	133 (121)	66 (25)	106 (162)

※H28.7月時点の対策実施状況を記載(()内はH27.8時点の箇所数) 1

2.対策検討の進め方

■新たな対策案検討の進め方

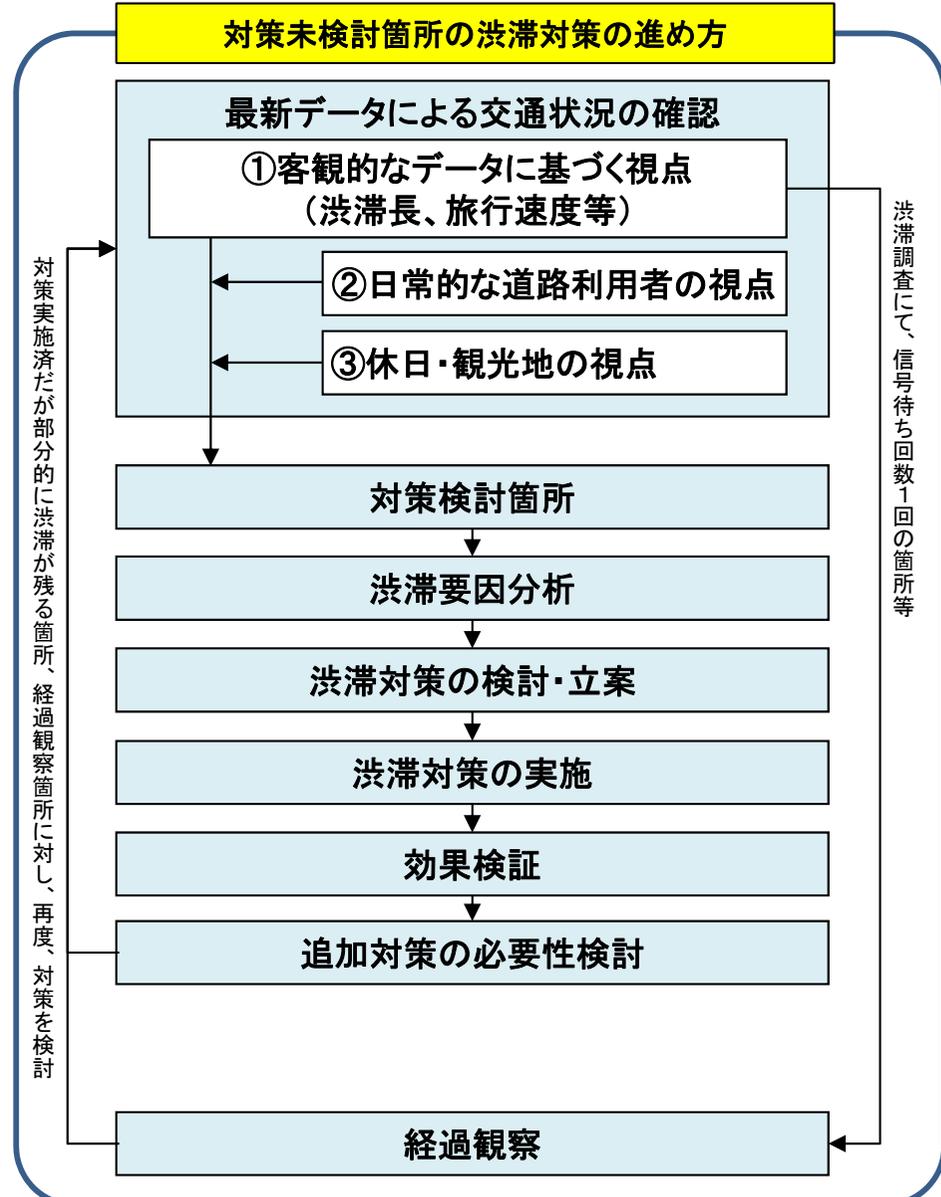
- 地域別の対策実施状況を整理するとともに、「対策未検討箇所」、「対策実施済だが部分的に渋滞が残る箇所」を中心として最新データによる交通状況を確認する。
- 交通データ、バス事業者アンケート、商業施設、観光地周辺の渋滞箇所等の最新データにより、対策検討の必要性が高い箇所について、地域協議会を活用しながら効率よく検討する。



3.最新データによる交通状況の確認手法(案)

■交通状況の確認の考え方

➤客観的なデータに基づく判定を基本としながら、日常的な道路利用者からの指摘有無、商業施設・観光地の有無等も考慮し、対策未検討箇所における対策検討を順次推進する。



①客観的なデータに基づく視点(交通データ(渋滞長、旅行速度等))

- 最新の交通実態調査結果、民間プローブデータ等により渋滞状況を確認する。
- 確認の結果、渋滞の程度が小さいなど対策検討の必要性の低い箇所については、経過観察とする。

②日常的な道路利用者の視点(バス事業者アンケート)

- 対象のバス事業者(12社)が利用しているバス路線を対象として、渋滞している箇所のアンケート調査を実施した。
- 主要渋滞箇所327箇所のうち、バス路線上にある主要渋滞箇所は284箇所であった。
- 結果、バス事業者アンケートによる指摘箇所は133箇所あり、うち対策未検討箇所は36箇所であった。
- バス事業者アンケートでの指摘状況を参考にしつつ、順次、対策検討を実施する。

③休日・観光地の視点(商業施設、観光地周辺箇所)

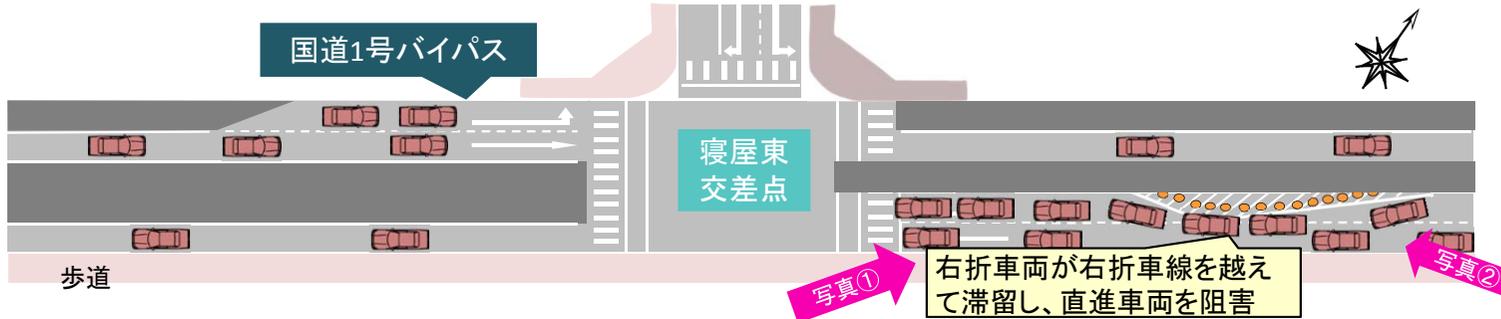
- 商業施設、観光地周辺の主要渋滞箇所として、各施設から500m圏内にあることを条件に箇所の特定を行った。
- 結果、商業施設周辺の主要渋滞箇所は24箇所であり、うち対策未検討箇所は7箇所であった。また、観光地周辺の主要渋滞箇所は40箇所であり、うち対策未検討箇所は11箇所であった。
- 商業施設、観光地の有無等を参考にしつつ、順次、対策検討を実施する。

4. 対策未検討箇所への対策案検討事例

■一般国道1号(第二京阪一般部)寝屋東交差点

- 今ある道路の効果を最小コストで最大限発揮させる取組みとして、交通が集中し、局所的にボトルネックとなる箇所をデータにより特定し、効果的な対策を検討している。
- 寝屋東交差点では、右折車両の滞留により、直進交通の走行阻害が発生していたため、後続直進車への影響を緩和する対策として、横断歩道、停止線の前だしによる右折車線の延伸、ポストコーン位置の調整を検討した。

現況

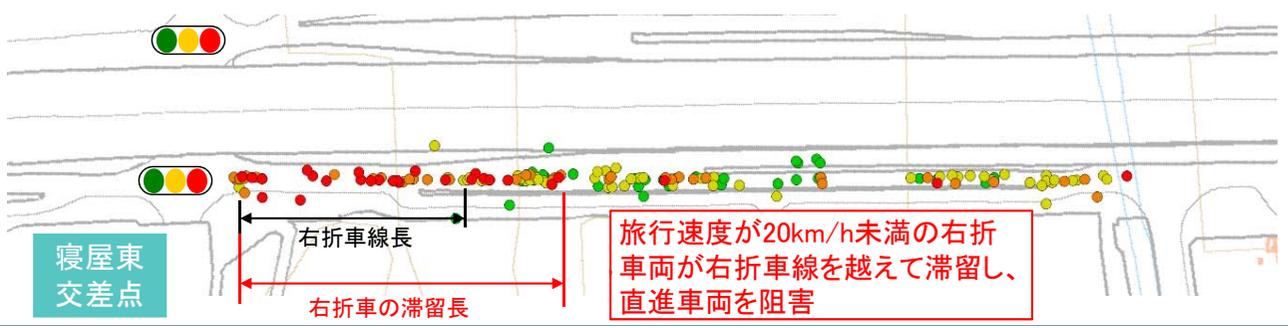


◆寝屋東交差点右折車両の地点速度データ

<凡例>
旅行速度

0~20km/h
20~30km/h
30~40km/h
40km/h以上

出典:ETC2.0プローブデータ (H27.9-11休日)



■現況写真



対策案

